

好奇心が駆動する BEYOND SMART LIFEの実現に向けて

一般に、社会課題の解決は「スマート社会」に向かうものと認識されていますが、果たしてそれだけでしょうか。日立京大ラボでは、2020年8月に書籍「BEYOND SMART LIFE 好奇心が駆動する社会」を上梓し、“スマート”だけではない社会の創り方を問うています。“スマート”だけではない社会の具体化には、社会や人と技術とのあるべき関係・倫理、さらにはそれぞれの地域の文化を理解することが重要です。本シンポジウムでは、第一部で社会イノベーションと倫理の関わり合い、第二部で人や生物の文化に学ぶ社会イノベーションに関する研究発表を通じて、“スマート”だけではない社会の可能性を探ります。

日時

2021.2.8

13:00 – 15:30 (開場12:30)

主催

日立京大ラボ、京都大学

場所

Zoomウェビナーによるオンライン生配信

費用

無料

申込

下記Webサイトよりお申し込みください



<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/hqrd/event2/form.jsp>

※定員1,000名に到達次第、締め切らせていただきます。

プログラム

[モデレータ] 兼松佳宏 (京都精華大学 人文学部 特任講師)

13:00-13:10 開会挨拶

時任 宣博

京都大学 理事・副学長

鈴木 教洋

日立製作所 執行役常務CTO
兼研究開発グループ長

第一部 社会イノベーションとAI倫理

13:10-13:30 アジア的AI倫理へ

出口 康夫

京都大学 大学院文学研究科 教授

13:30-13:50 自動運転車の法と倫理：リスクと共生する

稲谷 龍彦

京都大学 大学院法学研究科 准教授

13:50-14:10 人間の意思決定や行動変容を支援するAI技術と倫理

工藤 泰幸

日立製作所 基礎研究センタ
日立京大ラボ 主任研究員

14:10-14:20 休憩 (10分)

第二部 人や生物の文化に学ぶ社会イノベーション

14:20-14:40 自発的に助けられないチンパンジー、道具を使わないボノボ

山本 真也

京都大学 高等研究院 准教授

14:40-15:00 技術受容から問う〈文化〉と〈技術〉の共進化

塩瀬 隆之

京都大学 総合博物館 准教授

15:00-15:20 アフリカからの学びと価値の創造：差異を楽しめるか？

重田 眞義

京都大学 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授

15:20-15:25 総括

兼松 佳宏

京都精華大学 人文学部 特任講師

15:25-15:30 閉会挨拶

西村 信治

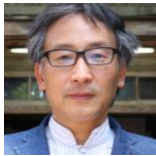
日立製作所 基礎研究センタ センタ長

[第一部] 社会イノベーションとAI倫理



アジア的AI倫理へ

AIが人間のパートナーとして社会で活躍する近未来。そこでは、社会、法、そして何よりも人間についての我々の考えもまたラディカルな見直しを迫られることになる。本発表では、西洋由来の従来の人間観のオルタナティブとしてのアジア的人間観を提案し、それにもとづいたAI倫理を、「自遊」と「脱倫理性」をキーワードに検討したい。



出口 康夫

京都大学 大学院
文学研究科 教授



自動運転車の法と倫理： リスクと共生する

AIを搭載した自動運転車は、少子高齢化や気候変動などの喫緊の社会課題を解決する可能性を秘めた技術である。しかし、学習したデータに基づいて統計的に挙動するため、重大な事故につながるリスクや不確実性の発現は避けられない。本講演では、リスクや不確実性と共生するための法や倫理を検討し、高度な自動運転車の社会実装への道を探る。



稲谷 龍彦

京都大学 大学院
法学研究科 准教授



人間の意思決定や行動変容を 支援するAI技術と倫理

日立は、社会イノベーション事業を通じた社会・環境課題の解決をめざしている。課題解決にあたり、集団心理や利他行動など、人間そのものを深く知ることが重要であり、それに対するITの関わり方を文理融合型の研究スタイルで探求している。この活動を通じて開発中のAI技術を倫理的側面を踏まえて紹介すると共に、今後の取り組みを述べる。



工藤 泰幸

日立製作所 基礎研究
センタ 日立京大ラボ
主任研究員

[第二部] 人や生物の文化に学ぶ社会イノベーション



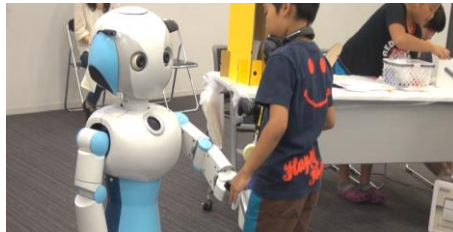
自発的に助けないチンパンジー、 道具を使わないボノボ

進化的にヒトに最も近縁なチンパンジーとボノボ。彼らには、利他性や文化といった「ヒトらしさ」の萌芽が多数みられる。しかし、多くの場面で、彼らは「できる」のに「しない」。他者が困っているのがわかっていても自発的に助けない。道具を使う能力があるのに、野生では使わない。彼らを通して、「足るを知る」社会の在り方を考えてみたい。



山本 真也

京都大学
高等研究院 准教授



技術受容から問う〈文化〉と 〈技術〉の共進化

ロボットに仕事が奪われるという脅えや新奇なテクノロジーに対する忌避は、その価値観がどのような文化に根差して醸成されたかに大きく依存する。異世代も異文化もそれぞれの原風景を郷愁するため、低成長・低生産性克服の切り札とみられたDXの画一化が機能しない事由について、インクルーシブデザインと技術受容の観点から概説する。



塩瀬 隆之

京都大学
総合博物館 准教授



アフリカからの学びと価値の 創造：差異を楽しめるか？

古来、異文化との接触は創造の源泉になってきたが、同時に排除や分断、差別や抑圧の契機にもなりうる。私自身のアフリカからの学びを振り返りながら、差異への気づきとその深い理解がもたらしてくれるかもしれない社会イノベーションの可能性を論じる。



重田 眞義

京都大学 大学院
アジア・アフリカ地域
研究研究科 教授